

意見書

教 科
国語

種 目
国語

発 行 者
東京書籍

調査項目	意 見
1 学習指導要領 (平成 29 年告示) ・何ができるようになるか ・何を学ぶか ・どのように学ぶか	(1) <ul style="list-style-type: none"> ・どの領域でも「言葉の力」を明示し、「見通す」「取り組む」「振り返る」の3つの段階で常に意識できるよう工夫している。 ・前学年の漢字を使って書く「漢字を使おう」を2年生以上は10回配置し、QRコンテンツで練習問題が呼び出すことができ、個別の学習もしやすい。
	(2) <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」の領域に関して、情報の扱い方に関する事項と関係性を持たせながら、単元が位置付けられている。そのため、書くことで身につけさせたい知識・技能に焦点を当てた授業構想になっている。 ・情報の扱い方に関する事項がどの学年にも振り分けられており、6年間を通して、バランスよく学ぶことができる。
	(3) <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを題材にしており、総合的な学習の時間などに関わらせて学ぶことができる。 ・それぞれの学習過程の内容が多岐に渡っている。
2 岐阜県教育振興 基本計画 (平成 31 年 3 月策定)	(1) <ul style="list-style-type: none"> ・郷土や伝統に関する単元は、各学年に配置されている。6年生では、SDGsについて協働的に調べ、発信する活動を設定している。
	(2) <ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツが非常に多い。動画で、児童が目指す姿が明確になっており、イメージがわく。資料数が多いのは、漢字などのワークシートが掲載されており、印刷して使うことができるようになっている。 ・QRコードが多くページに配置されており、必要な動画等がすぐに見られる点が良い。
	(3) <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生、バリアフリー社会に関する教材が10採用されているが、4年「世界一美しい・・・」はシリーズであり、1年「あるけ あるけ」は挿絵のみなので、内容として8つは平均的な数である。
3 印刷・製本等	(1) <ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとって負担が少ない重さになっている。5、6年生は、分冊にせず、500gを切っている。
	(2) <ul style="list-style-type: none"> ・教材の巻頭の写真や挿絵が大きく印象的で、児童の興味を引く。分かち書きの採用学年が他者より長く、外国籍の児童の助けになる。
	(3) <ul style="list-style-type: none"> ・「言葉の力」については端的に述べられている。「コトハのポイント」は単位時間の付けたい力として焦点化するべき内容なので良い。「言葉の力」は単元の冒頭と末尾にあり、学び方と身に付ける力が分かりやすく示されているので良い。

意見書

教 科
国語

種 目
国語

発 行 者
教育出版

調査項目	意 見	
1 学習指導要領 (平成 29 年告示) ・何ができるようになるか ・何を学ぶか ・どのように学ぶか	(1)	・各学年の巻頭にその学年で何を学び、どのような言葉の力を付けていくのかが一覧になっている。 ・「漢字の広場」と「前学年で習った漢字」が連続して掲載されていて、学習したことを活用できる。
	(2)	・「書くこと」の領域に関して、それぞれの単元で、独立した単元が多い。 ・情報の扱い方に関する事項は説明的文章を書く単元の中に組み込まれている。
	(3)	・前単元のパネルディスカッションと関連付け、違う立場で討議しながら 1 冊のパンフレットを制作するため、テーマが同じであってもその内容を統合させていく必要がある。 ・示されたモデルには、役割や分担が明記されていない。
2 岐阜県教育振興 基本計画 (平成 31 年 3 月策定)	(1)	・「話す・聞く」「書く」教材を中心に、他教科で郷土・伝統について調べた学習に合わせて言語活動に取り組めるよう結び付けられている。
	(2)	・コンテンツの内容は、補足資料が多い。外部リンク（NHK・市役所ホームページ）が多くあり、教科書の内容からは離れたものとなっている。
	(3)	・多文化共生、バリアフリー社会に関する教材が 1 年、3 年、4 年の合計 6 つ掲載されている。他者と比べて少ない。外国籍の子供たちと共に過ごしている可茂の子供たちにとっては、各学年にまんべんなく多文化共生の単元はあるわけではない。
3 印刷・製本等	(1)	・分冊にすることで、300g 前後に重さを抑えていることはよい。
	(2)	・他者が文の組み立てを学習してから、分かち書きをなくしているが、教科書の区切れを境にして、分かち書きがなくなっている。
	(3)	・「ここが大事」の中に多くの視点が一度に示されている。

意見書

教 科
国語

種 目
国語

発 行 者
光村図書出版

調査項目	意 見	
1 学習指導要領 (平成 29 年告示) ・何ができるようになるか ・何を学ぶか ・どのように学ぶか	(1)	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の巻頭に学び方の流れが分かるページがあり、そのページが他のページより幅が短く、開きやすい。 脚注の新出漢字は、四角で囲むことで分かりやすくしている。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」の領域に関して、1年間を通した計画だけでなく、6年間で発展していく単元構想となっている。特に、「読むこと」との複合単元が仕組まれており、課題解決型の授業で子供たちの単元への意識が高まる工夫が非常に良い。 情報の扱い方に関する事項は、「読むこと」の説明的文章の単元と共に扱われていることが多いことで、読み込んだ文章の中で理解が進むような工夫がある。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> 子供が興味をもったことを中心に学習を進めることができ、さらに単位時間の活動が焦点化されており、単位時間のモデルも示されていることで学習過程が非常に分かりやすい。「書くこと」に対して苦手意識をもつ可茂の子にとって学習の見通しが非常にもちやすい。
2 岐阜県教育振興 基本計画 (平成 31 年 3 月策定)	(1)	<ul style="list-style-type: none"> 2年生以上では、郷土・伝統に関する単元の他に、SDGsに関するテーマを多く扱っている。また、学年が上がるにしたがって、地域から世界へと児童の視野を広げる工夫がされていて、外国籍児童の多い、可茂地区に適している。他教科の学習と関連して「書く」「話す・聞く」活動につなげられるよう工夫されている。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツの内容は、動画や音声、写真など、目や耳で触れる教材が非常に多い。資料は、補足資料ではなく、教科書のこれまでの学習を一覧で振り返ることができるような工夫があり、これまでに学習したことを確認しながら進めることができるようになっていて非常に良い。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> 多文化共生、バリアフリー社会に関する教材が11採用されており、3者の中で最多である。これからの社会を生きる子供たちにとって様々な文化に触れることや、他者を思いやる心を育てるのに大変適している。
3 印刷・製本等	(1)	<ul style="list-style-type: none"> 分冊にはしていないが、学年に応じて、重さを調整している。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> 色覚特性に配慮した配色や色以外でも区別できるよう工夫されている。文章の組み立ての単元の学習を行った後に、分かち書きをなくすことで、段階的に文章に慣れさせる工夫があるので良い。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> 「たいせつ」や「いかそう」では国語で付けたい資質・能力が適切に示されている。さらに、汎用的な力や教科横断的な力を育むために重要な視点が適切に示されており、子供たちが国語で学習したことを将来役立つ力として実感できるので非常に良い。